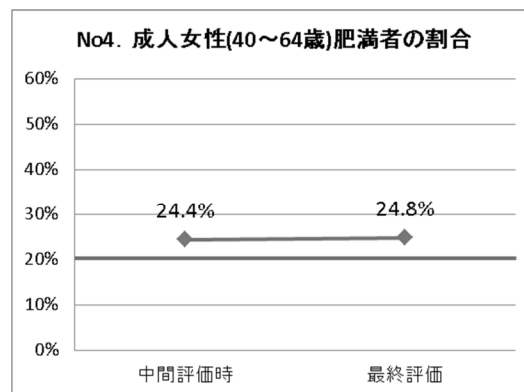
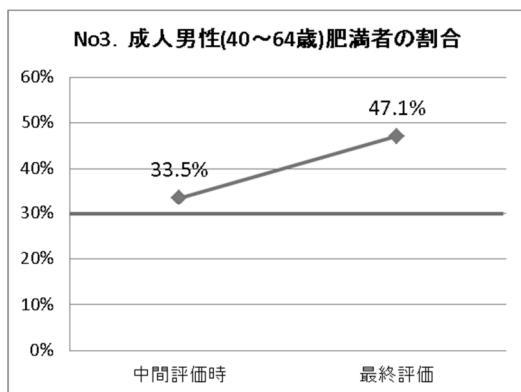
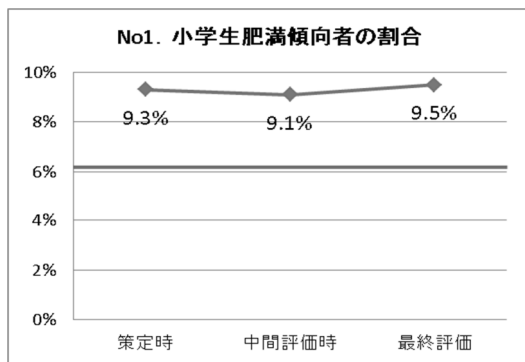


2) 分野別の評価

(1) 自助に関すること

① 栄養・食生活

番号	重複分類	項目	指標	データ資料					(参考) 国目標	特記事項
				策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	判定区分		
1		適正体重を維持している人の増加	小学生の肥満傾向者の割合	9.3%	9.1%	9.5%	6.2%	C		
				平成14年度学校保健統計	平成20年度学校保健統計	平成24年度学校保健統計				
2			中学生のやせの者の割合	3.1%	2.1%	2.0%	2.0%	A		
				平成14年度学校保健統計	平成20年度学校保健統計	平成24年度学校保健統計				
3	糖・循		40～64歳代男性の肥満者の割合		33.5%	47.1%	30.0%	D		
					平成20年度特定健診問診票	平成24年度特定健診問診票				
4	糖・循		40～64歳代女性の肥満者の割合		24.4%	24.8%	20.0%	C	20%以下	
					平成20年度特定健診問診票	平成24年度特定健診問診票				
5	循	食塩摂取量の減少	味噌汁塩分濃度のふつつ以下の割合		—	91.1% (1.2%未満の割合*)	増加	E		*岡山県栄養改善協議会が提示した基準値 中間評価以降指標を作成したが、以前は尿中塩分濃度測定を実施しており、笠岡市栄養改善協議会において味噌汁塩分濃度測定を実施しはじめたのは平成21年度以降である。よって、以前との比較ができなため、判定不能とする。
					—	平成24年度味噌汁塩分濃度測定結果				



<結果>

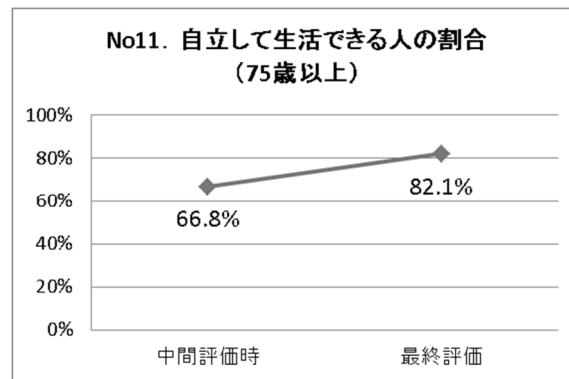
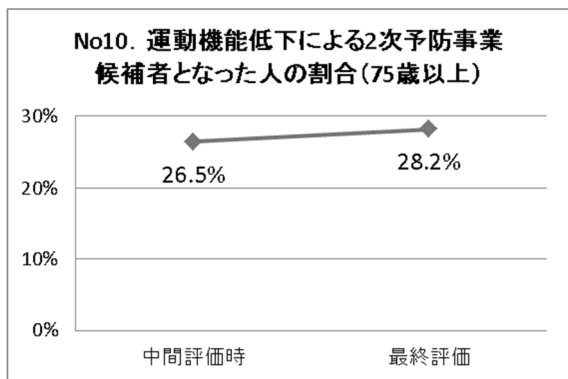
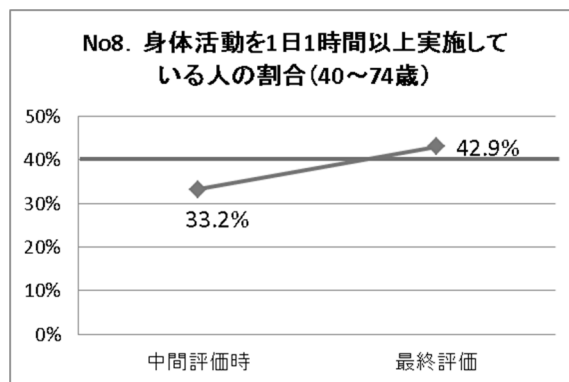
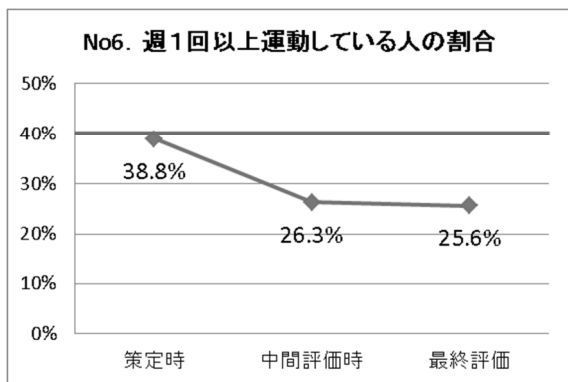
肥満者の割合は、小学生・成人(40～64 歳)男女ともに目標値に達成しなかった。
特に、成人男性(40～64 歳)の肥満者割合が悪化した。

<今後の取組>

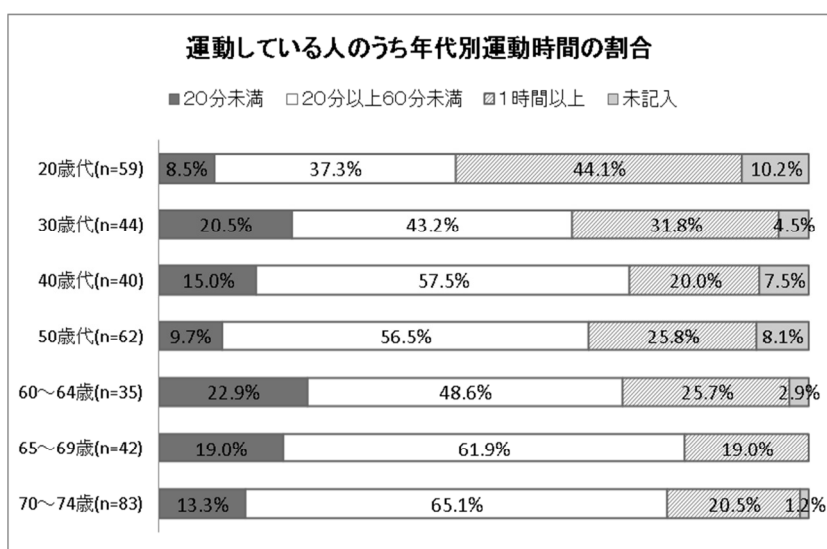
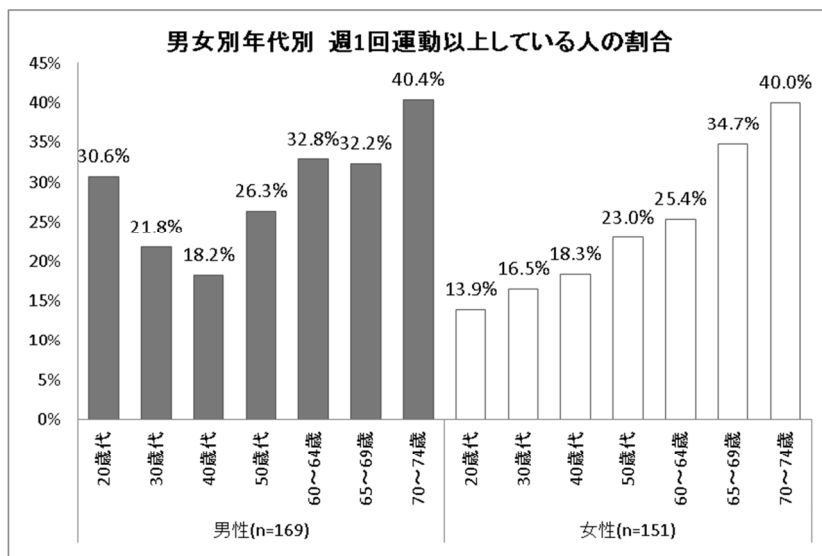
40～64 歳の男性の肥満者割合が増加していたことから、特に男性に対し取り組みを進めていく必要がある。地域で実施している男性料理教室に“肥満予防”を盛り込んでいくこと等で、改善につなげていきたい。

② 身体活動・運動

番号	重複分類	項目	指標	データ 資料					(参考) 国目標	特記事項
				策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	判定区分		
6		意識的に運動を心がける人の割合	週1回以上運動している人の割合	38.8%	26.3%	25.6%	40.0%	D		
				平成13年度実施アンケート結果	平成19年度実施アンケート結果	平成24年度実施アンケート結果				
7			1日30分以上、週2日以上運動をしている者の割合(40～74歳代)		36.6%	35.5%	40.0%	C	男性 39%以上 女性 35%以上	
					平成20年度特定健診問診票	平成24年度特定健診問診票				
8			身体活動を1日1時間以上実施している者の割合(40～74歳代)		33.2%	42.9%	40.0%	A		
					平成20年度特定健診問診票	平成24年度特定健診問診票				
9		フィットネスクラブへの参加数の増加			—	343人	増加	E		中間評価以降指標を作成しており、計画策定時との比較ができないため判定不能とする。
					—	平成24年度ミズノウェルネスクラブ利用実人数				
10		運動機能の候補者となった人の割合(75歳以上)			26.5%	28.2%	減少	C		生活機能評価のための質問票において、運動器該当者数/実施者総数(%)
					平成20年度生活機能評価質問票	平成24年度生活機能評価質問票				
11		自立して生活できる人の割合(75歳以上)			66.8%	82.1%	増加	A		
					平成20年度介護保険課データより算出	平成24年度介護保険課データより算出				



<平成 24 年度健康づくりアンケート集計結果より>



<結果>

運動習慣をもつ者の割合は策定時と比べ減少したが、身体活動を1日1時間以上実施している者の割合は増加し、目標値を達成した。

75歳以上で、運動機能が低下しているという意識をもつ者は横ばいであったが、自立して生活できる人の割合は増加していた。

年代別割合をみると、男性では40歳代が一番割合が低くV字型のグラフになっていた。女性では20歳代が一番割合が低く、全体の中でも特に低い割合となっており、年代が高くなるにつれて割合も高くなっていた。

運動時間については、20歳代では1時間以上が一番多く、その他のすべての年代において20分以上60分未満が一番多い割合であった。

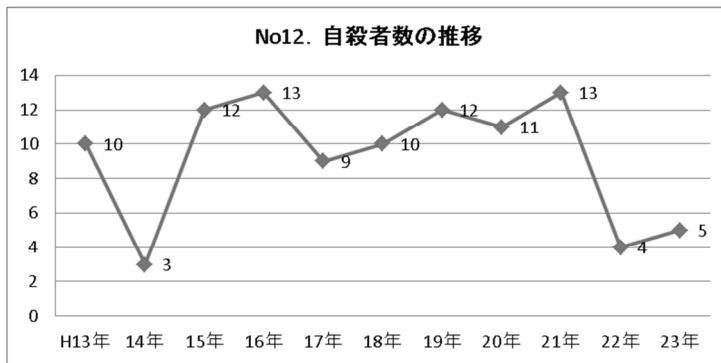
<今後の取組>

生涯自立した生活を送るためには、日ごろから体を動かし筋力の維持などに取り組むことが大切である。笠岡市において、まだ自立に戻る可能性が高い「要支援」の新規認定者の認定理由として、「骨・関節疾患」が最多であることから（Ⅱ 市民を取り巻く環境の変化 参照）、今後は、働く世代に対して『ロコモティブシンドローム』の普及に取り組む必要がある。

特に 20～30 歳代の運動習慣は成長期の運動習慣の有無が影響していると考えられることから、若い世代から運動や生活活動量を増やす習慣をつけ、生涯継続して取り組んでいけるよう検討したい。

③ 休養・こころの健康づくり

番号	重複分類	項目	指標	データ 資料					(参考) 国目標	特記事項
				策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	判定区分		
12		自殺者の減少	自殺者数	10人	10人	5人	減少	A	全国数 2,200人 以下	
				平成13年死亡統計	平成18年死亡統計	平成23年死亡統計				



<結果>

自殺者数は策定時と比べ減少した。

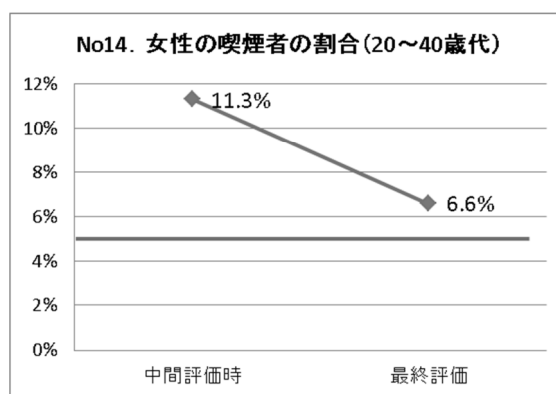
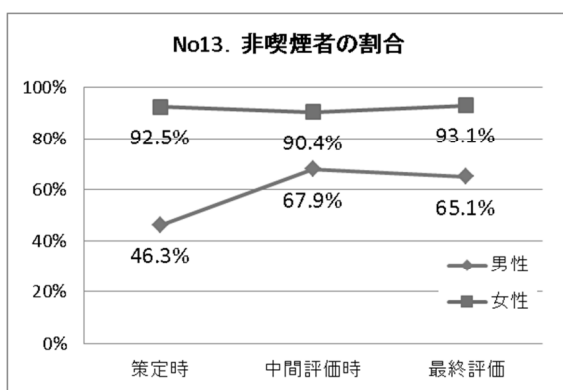
<今後の取組>

策定時と比べ自殺者は減少しており改善がみられたが，国保医療統計をみると自殺の主たる原因である“精神疾患”の医療費が策定時より増加しており，予防の取り組みが必要と考える。

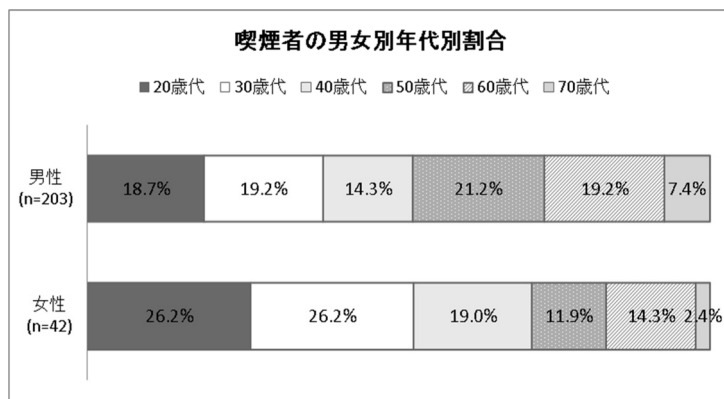
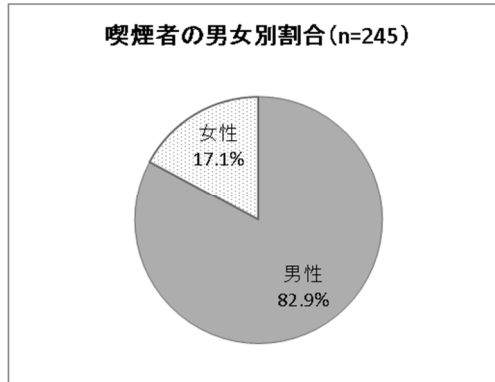
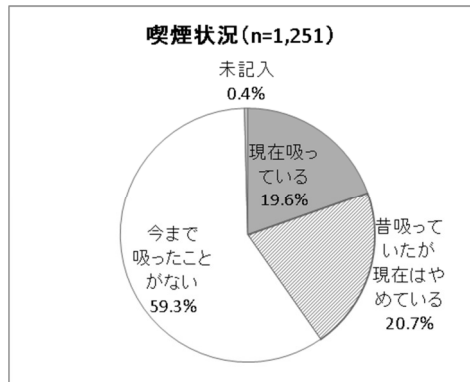
平成24年度より愛育委員協議会協力のもと自殺予防対策（皆が声をかけあえる地域づくり）に向けて心のゲートキーパー研修の取り組みを開始しており今後も継続していく。休養やこころの健康に関連する行動の変化や自殺者の問題は，経済問題や社会環境の影響が大きな要因となるため情勢に合わせた取り組みが必要と考える。

④ たばこ

番号	重複分類	項目	指標	データ資料					(参考) 国目標	特記事項
				策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	判定区分		
13		喫煙率の減少	非喫煙者の割合	男性46.3% 女性92.5% 平成13年度実施アンケート結果	男性67.9% 女性90.4% 平成19年度実施アンケート結果	男性65.1% 女性93.1% 平成24年度実施アンケート結果	増加	C		
14			女性の喫煙者の割合(20～40歳代)		11.3% 平成20年度妊娠届出	6.6% 平成24年度妊娠届出	5.0%	B		



<平成24年度健康づくりアンケート集計結果より>



＜結果＞

非喫煙者割合は横ばいだが、妊娠届出からみた 20～40 歳代の女性の喫煙者割合は減少傾向にある。

喫煙者のうち約 8 割が男性であった。

年代別にみると、男性は年代により顕著な違いは見られなかったのに対し、女性は、20～30 歳代で半数を占めていた。

＜今後の取組＞

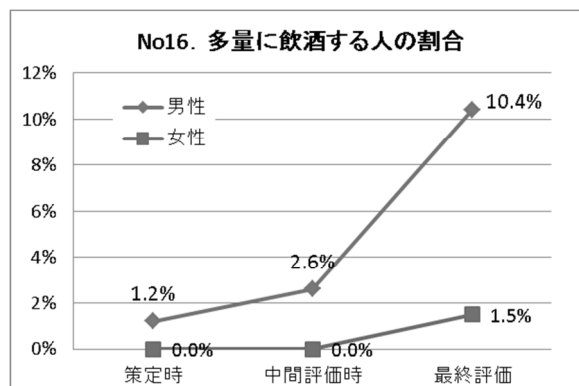
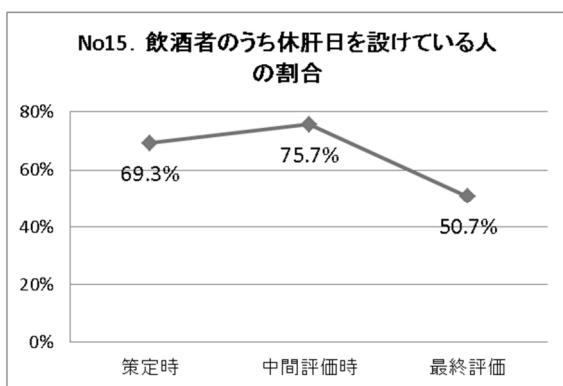
喫煙は、がんや生活習慣病のリスク要因であり、また、近年 COPD の予防の重要性もうたわれていることから、その原因となるたばこについて、非喫煙者が増えるように取り組みを検討していく必要がある。喫煙への意識が様々であるため今後は、精神的な面への配慮をしながら対象者に合わせた支援方法が必要と考える。

⑤ アルコール

番号	重複分類	項目	指標	データ資料					(参考) 国目標	特記事項
				策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	判定区分		
15		多量に飲酒する人の減少	飲酒者のうち休肝日を設けている人の割合	69.3%	75.7%	50.7%	増加	D		
				平成13年度実施アンケート結果	平成19年度実施アンケート結果	平成24年度実施アンケート結果				
16		多量に飲酒する人の割合	多量に飲酒する人の割合	男性1.2% 女性0%	男性2.6% 女性0%	男性10.4% 女性1.5%	減少	D	男性3.2%以下 女性0.2%以下	*注1
				平成13年度実施アンケート結果	平成19年度実施アンケート結果	平成24年度実施アンケート結果				

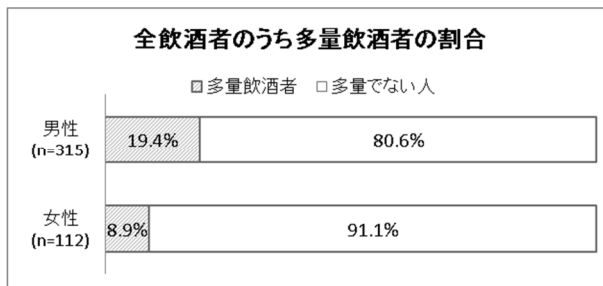
*注1「多量飲酒者」…①1日あたり5合以上、②1日あたり4合以上5合未満週5日以上、③1日あたり3合以上4合未満で毎日飲酒、のいずれかに該当する者としている。

上記②では、飲酒する日数が週5日以上と定められているが、24年度実施のアンケートでは、飲酒の頻度についての選択肢を、「ア. 飲まない(1週間に1日未満)」「イ. 週何回か飲む(1週間に1～6日)」「ウ. 毎日飲む」としており、選択肢イについて、週のうち飲酒する日数の把握ができなかった。よって、イを選択した者のうち、多量飲酒者と判断できない者(男性4名、女性7名、計11名)は対象および母数から除いている。(男性61名/581名中、女性10名/659名中で算出)

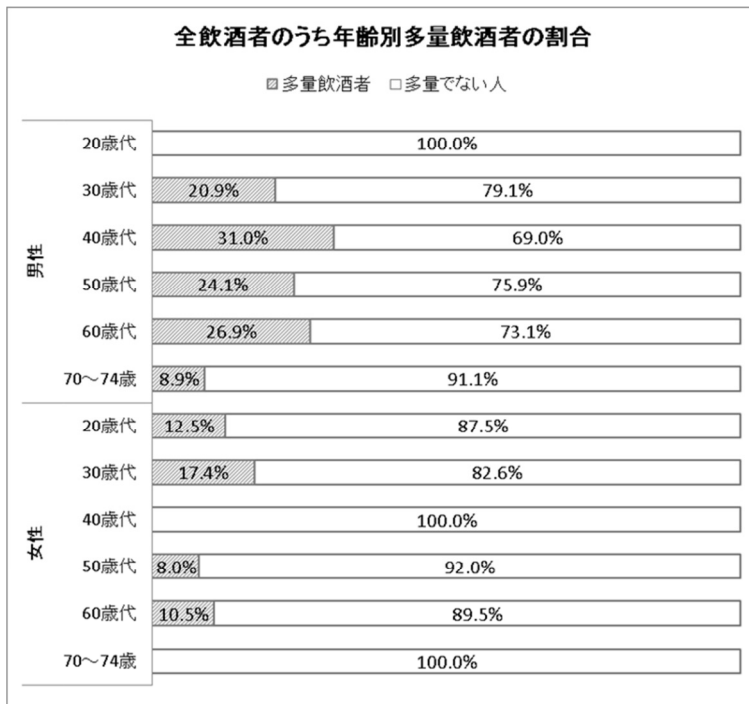


<平成24年度健康づくりアンケート集計結果より>

男女別年代別飲酒状況		□ 飲まない(1週間に1日未満) □ 週に何回か飲む(1週間に1～6日) □ 毎日飲む ■ 未記入			
男性	20歳代	63.1%	29.7%	5.4%	1.8%
	30歳代	49.4%	27.6%	23.0%	
	40歳代	45.5%	23.4%	31.2%	
	50歳代	39.4%	19.2%	41.4%	
	60歳代	32.5%	17.1%	49.6%	0.8%
	70～74歳	40.4%	21.3%	38.3%	
	計	45.0%	22.9%	31.6%	0.5%
女性	20歳代	87.6%	12.4%		
	30歳代	76.1%	16.5%	7.3%	
	40歳代	80.7%	12.8%	6.4%	
	50歳代	77.9%	15.0%	7.1%	
	60歳代	81.5%	10.2%	7.4%	0.9%
	70～74歳	84.4%	12.2%	3.3%	
	計	81.5%	13.2%	4.7%	0.6%



※左記及び下記グラフでは、多量飲酒者かどうか不明な者（男性 4 名、女性 7 名）は除いている。



<結果>

休肝日を設けている人の割合は減少し、多量飲酒者の割合も男女ともに増加した。
飲酒者の男女比はおよそ 2.7：1 の割合で男性の方が多く、男性の半数以上が飲酒者であった。

年代別にみると、男性は 20～60 歳代までは年齢が高くなるにつれて飲酒者が増加しており、特に毎日飲む人の割合が増加していた。

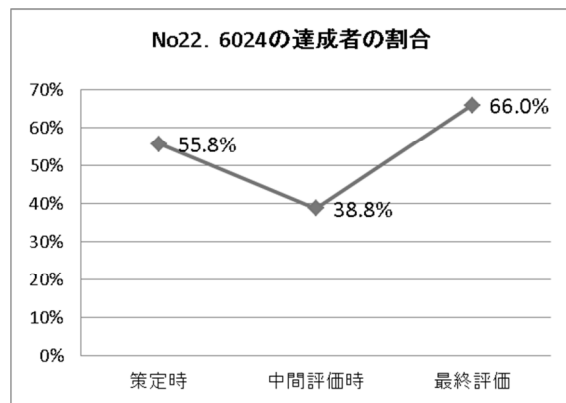
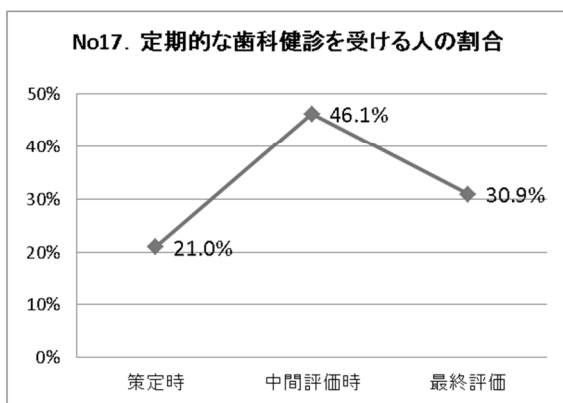
多量飲酒者の割合は、男性の 30～60 歳代、女性の 30 歳代に多く見られた。

<今後の取組>

飲酒は、習慣性があり、肝機能低下や脳血管疾患といった生活習慣病やアルコール依存症につながる恐れがあり、今後も正しい知識の普及に努めたい。

⑥ 歯の健康

番号	重複分類	項目	指標	データ・資料					(参考) 国目標	特記事項
				策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	判定区分		
17		8020を目指した歯の健康づくり	定期的な歯科健診を受ける人の割合	21.0%	46.1%	30.9%	増加	A	55～64歳 30%以上	
				平成13年度実施アンケート結果	平成19年度実施アンケート結果	平成24年度実施アンケート結果				
18			成人歯科健診受診者数		0.1%	0.3%	増加	E		受診人数/4.1時点で笠岡市に住民登録のある40～69歳の者(%)
					平成20年度成人歯科健診受診者	平成24年度成人歯科健診受診者				
19			定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人(40～70歳)		23.8%	37.7%	50.0%	B		母数は成人歯科健診受診者数＋実態調査実施者数
					平成20年度成人歯科健診問診票	平成24年度成人歯科健診問診票				
20	たばこ		喫煙と歯周疾患の関係について知識を持つ人(40～70歳)		34.8%	53.2%	50.0%	A	100%	母数は成人歯科健診受診者数＋実態調査実施者数
					平成20年度成人歯科健診問診票	平成24年度成人歯科健診問診票				
21			進行した歯肉炎のある人(40～70歳)		34.8%	7.8%	減少	A		母数は成人歯科健診受診者数＋実態調査実施者数
					平成20年度成人歯科健診問診票	平成24年度成人歯科健診問診票				
22			6024の達成者の割合	55.8%	38.8%	66.0%	増加	A	55～64歳 50%以上	*「6024の達成者」とは… 55～64歳で24歯以上の歯をもつ者
				平成13年度実施アンケート結果	平成19年度実施アンケート結果	平成24年度実施アンケート結果				



<結果>

定期的な歯科健診を受ける人および成人歯科検診受診者数は増加した。

成人歯科健診受診率は低いながらも、喫煙と歯周疾患の関係について知識のある者の割合は目標値を達成した。

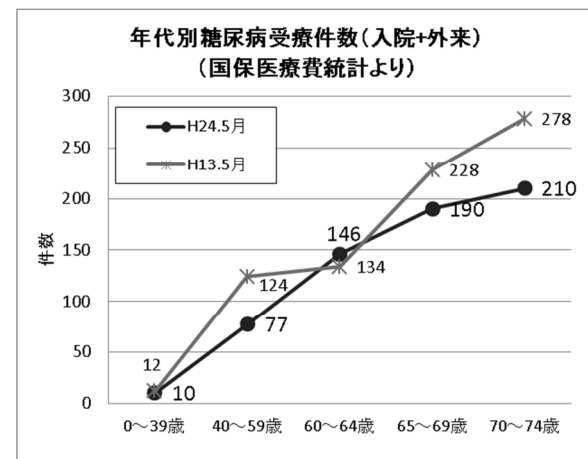
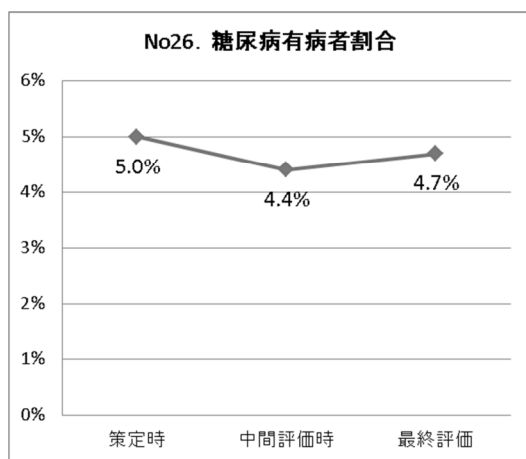
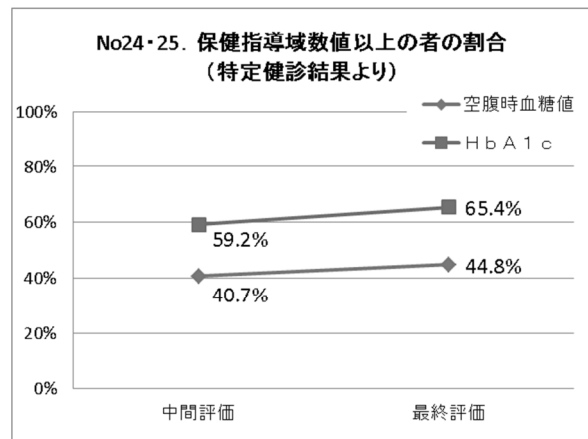
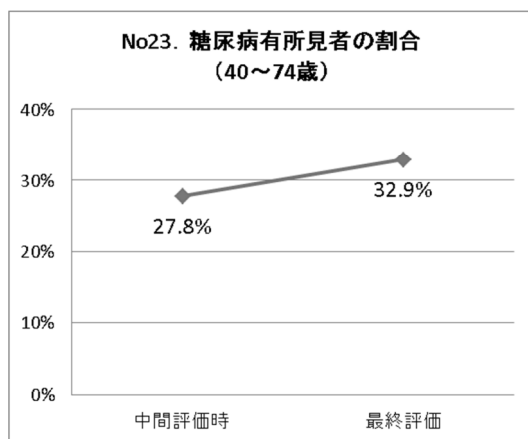
6024 達成者の割合は増加した。

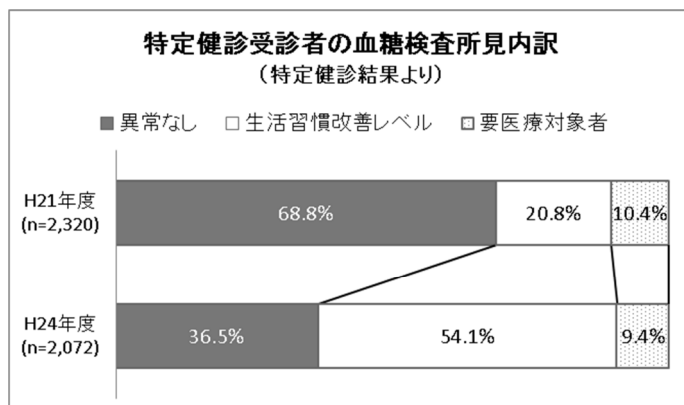
<今後の取組>

身体機能の維持や低栄養の予防等介護予防に“噛むこと”“嚥下”は大きく関与しており、若い世代からの予防を普及していきたい。

⑦ 糖尿病

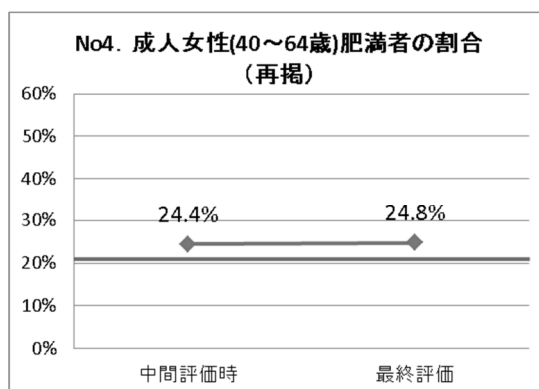
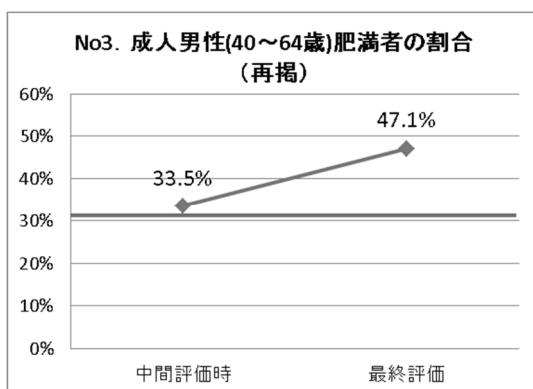
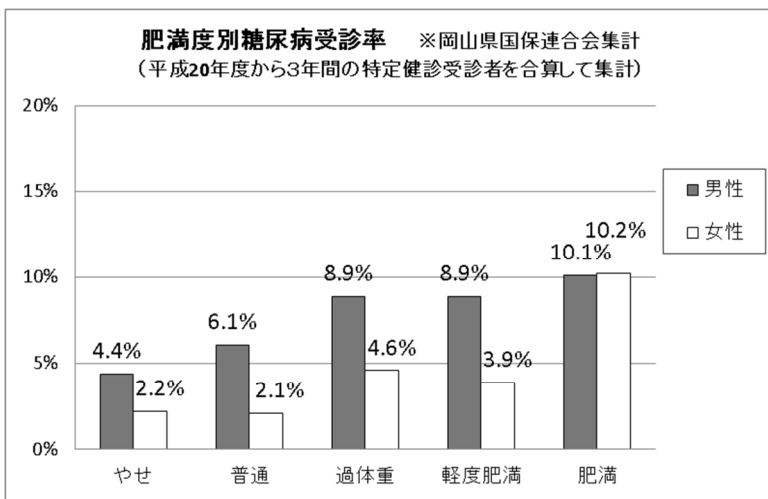
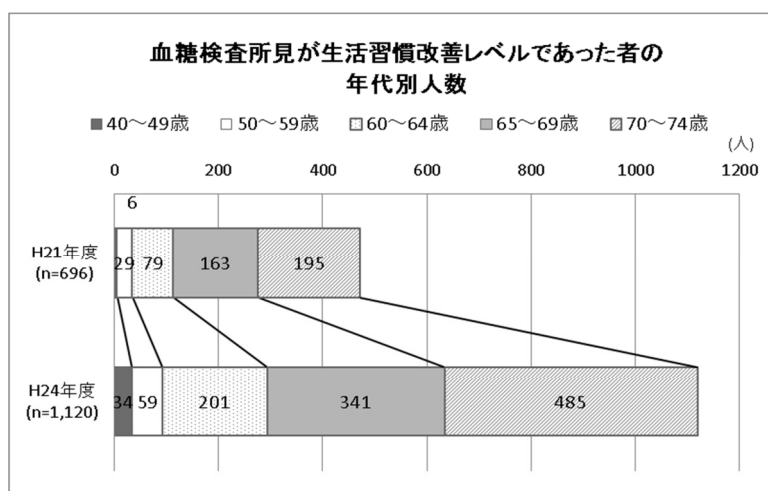
番号	重複分類	項目	指標	データ・資料					(参考) 国目標	特記事項
				策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	判定区分		
23		糖尿病有病者の減少	糖尿病有所見者の割合(40～74歳)		27.8%	32.9%	減少	D		「有所見者」とは、「要指導」「要観察」「治療中」「要精検」「要医療」判定の者
24			空腹時血糖が保健指導域数値以上の人の割合(40～74歳)		40.7%	44.8%	減少	D		
25			HbA1cが保健指導域数値以上の人の割合(40～74歳)		59.2%	65.4%	減少	D		
26		糖尿病合併症の減少	糖尿病有病者数の割合	5.0%	4.4%	4.7%	減少	C		入院+外来受療件数/国保加入者数 ※策定時と最終評価時を比較するため、74歳以下を対象としている。
27			糖尿病性腎症による透析者の割合(全透析者中の糖尿病が原因の透析者数)		—	27.2%	減少	E		中間評価以降指標を作成しており、計画策定時との比較ができないため判定不能とする。





※「生活習慣改善レベル」…
「有所見」「要再検」「要観察」「要指導」
「生活習慣改善」と所見がついた者

※「要医療対象者」…
「要精検」「要医療」と所見がついた者



<結果>

糖尿病有病者割合は横ばいであるが、特定健診の結果より、空腹時血糖およびHbA1cが特定保健指導域数値以上の人の割合が増加した。血糖検査所見内訳をみると、特に、生活習慣改善レベルの人が各年代において増加しており、年齢と共に割合が増加していた。

糖尿病のリスク要因である「肥満」について、「栄養・食生活」分野で示したとおり成人男性の肥満者割合が増えており、特定健診受診者の肥満度別糖尿病受診率を見ると、糖尿病受診者のうち男性では肥満の者が多くなっていた。

<今後の取組>

糖尿病予備軍が増加していることから、糖尿病に移行しないための啓発活動が必要である。対象者の段階に合わせた支援により、重症化予防にも取り組みたい。

さらに、より早い段階から生活習慣を改善することで、糖尿病のリスク要因である肥満の予防・解消に努めたい。